

# 目的達成で「海の幸」会解散

## 小谷家の都内で式の翌日には有志が館山訪問 修復・保存

青木繁が「海の幸」を家住宅の修復、保存に向けた館山市布良の小谷一、全国の画家で組織し



小谷家を前に記念誌を手にする海の幸会や地元の関係者ら＝館山市布良で



大村理事長に感謝状を手渡す金丸市長＝都内で

た「NPO法人青木繁海の幸」会（大村智理理事長）が、当初の目的を達成したとして、22日に東京都内で解散式を行った。翌23日には、会員有志が館山を訪れ、公開されている小谷家を見学した。

海を幸を生んだ小谷家を後世に残そうと、全国の画家、美術関係者で平成22年に発足した団体で、ノーベル賞受賞者の大村氏が理事長。小谷家、地元保存会、市と協力、連携して修復

保存に向けた運動を展開。会では広く全国に向けて寄付を呼び掛け、全国の画家に協力を求めたチャリティー巡回展などでも資金を集め、地元保存会の募金、市の補助金を合わせて、管理棟建設を含めた総工費4300万円を集め、修復、公開を実現した。

同会によると、会の運動に賛同した会員は約700人。大村氏も個人で多額の寄付、石橋財団も1200万円助成しており、同会の呼び掛けで集まった寄付は約3500万円になるといふ。小谷家は2年がかりの修復で平成28年4月、「青木繁『海の幸』記念館」としてオープン。1月末現在で来場者は5000人を超え、多くの訪問客でにぎわいをみせており、会では当初の目的は達成したとして、活動をまとめた記念誌発行をもって解散した。

解散式は「快慶会」の名称で都内であり、大村理事長ら130人が参加。式には館山市の金丸謙一市長も出席し、「海の幸」の活動なくして、小谷家の修復はできなかった」と謝辞を述べ、大村理事長に感謝状を手渡した。

翌日には、当初から活動に関わる同会の吉岡友次郎事務局長、吉武研司理事ら会員有志14人が、小谷家を訪れた。吉岡事務局長は「吉武さんとの地に訪れ、保存をした」と動き出し、18年になつた。小谷家が修復され、このような形で公開される。小谷家が修復されているはず」と笑顔。

解散にあたり「（小谷家を修復するという）会館」の目標は達成し、ここで句読点を打つことになった。会員には記念誌を配布し、地元の保存会への協力をお願いした。今後は会員が個々に保存会のメンバーに加入し、地元の保存、管理を支援する形にしたい」と語った。

現当主で記念館館長の小谷福哲さんは「皆さんのおかげでここまで来ることができた。会員の皆さんの思いを受け止め、今後も末永く、保存、公開の活動を続けていきたい。訪れた人に、青木がここにいて、海の幸を描いたという雰囲気、空気を感してもらえようようにしたい」。先代の小谷栄さんは「修復され多くの方に目に来てもらうて、うれしいね」と喜んでた。